

## 28 オランダ・ライデンの外科医ギルドの歴史

石田純郎

『解体新書』のオランダ語版原書の訳者ヘリット・ディクテンはオランダ・ライデンのギルド外科医であった。ライデン市公文書館に保存されている一次史料を調査し、都市ライデンの外科医ギルドの実態の解明を試みた。

ライデンでは一四四一年より毎年、聖母教会の聖コスマスと聖ダミアンの祭壇で外科医の会合が持たれた。聖コスマスと聖ダミアンは、外科医、薬剤師などの医療系職業の守護聖人である。この宗教行事を行っていた外科医の職能団体がギルドに発展した。ライデンの外科医ギルドの旧名は「聖コスマスと聖ダミアン修道会」で、その名はすでに一五七三年の古文書に記されている。一五八九年に最初の「ギルド規約」が制定・施行された。この時点ではまだ、外科医と床屋の合同ギルドであった

が、十六世紀末にライデンの合同ギルドは分裂し、外科医ギルドの会員は外科医だけになった。この時点では、徒弟期間はまだ二年間であったが、やがて五年間、最終的には七年間（二六八一年）に延長された。一六〇二年より大学の解剖講堂とは別に、第二の解剖講堂が聖セシリア・ガストハウスに置かれた。一六六九年まで外科医ギルドにこの解剖講堂が利用された。

一六六九年からコレギウム・メデイコ・チルルギウム (Collegium Medico Chirurgicum) が計量館（二六五九年完成の階上で行なわれ始め、外科医が定期的な会合を持つことを市当局から許可された。すなわち、外科医の集会所が計量館の階上におかれたことを意味する。この当時の外科医ギルドの役員は下記の通り定められていた。管理職として、次の六ポストが置かれた。まず会長が一名で、ライデン大学教授がこのポストに就いた。大学教授が外科医ギルドの会長職に就くことは、オランダでは例外的なことであった。そして会長を補佐する二人の内科参事が置かれた。外科医のポストとしては、理事長と二人の試験係マスターが置かれた。試験係マスターは外

科医の資格試験を担当した。当時、徒弟教育は、下記のようになされていた。新しい徒弟は外科医の集會室に赴き、ギルドブックに記入し、外科医ギルドに対して「入會金」を支払った。修業期間は五年間で、その内最初の二年間は一人のマスターに師事しなければならなかった。そして修業が終了したとき、徒弟はマスターから修業終了証明書 (Lehrbrief) を得た。外科医の資格試験は、「包帯実習試験」、「予備試験」、「設問論文試験」の三段階に分けて行なわれた。

一六八一年に印刷・配布された最初のギルド規約が完成した。この規約は金属活字で印刷され、全二九頁で、前文と条項三〇条からなる。

『解体新書』のオランダ人訳者ディクテンは外科医資格試験に合格して、一七二一年に外科医親方になった。試験係マスターには一七四〇年、一七四七年、一七五一年の計三回選出され、理事長には一七四四年から一七六八年までの間、計七回選出された。すなわち、ディクテンはライデンの外科医ギルドの中枢にあり、ギルドの要職を歴任した外科医であった。彼は外科医に必要な内科学、

外科学、解剖学の知識のための本の刊行に尽力したが、その内の一冊が『解体新書』の原著『解剖学表』であった。

一七八九年にフランスで勃発した革命は、一七九五年にオランダ連邦共和国政権を崩壊させ、親フランス政権であるバタビア共和国が成立した。その結果、オランダ連邦共和国時代の地方分権政治は廃され、中央集権的性格が強くなった。また一七九八年の新しい法律の執行は、公式にギルドやその類似団体を廃止に追い込んだ。

十八世紀末までの外科医は、現在の外科医とその医学的、社会的位置付けがまったく異質である。旧体制下の外科医は職人であり、外科では知識よりも技術が重んじられていた。十八世紀末までの職人であった外科医は旧体制と共に滅び去り、内科医と均質の医師に属する近代的な外科医の資格は十九世紀末になってオランダで出現した。『解体新書』オランダ語版原書の翻訳者であったディクテンは、ギルドに属した、旧体制と共に滅び去ってしまった職人外科医であった。

(公立新見女子短期大学)